

燃料部

JA SS

令和サンキューフェア 夏の陣抽選会

JA・SSでは恒例となりました「JA・SS 令和サンキューフェア・夏の陣」を7月20日～8月18日までの1ヶ月間、県内60SSで開催しました。今年度の応募総数は、11,386件とたくさんご応募をいただきました。日頃のご愛顧に感謝申し上げます。9月6日の抽選会にて、厳正なる抽選を行い、のんちゃん賞(レインボー商品券(5,000円分)または福島県産農畜産物(5,000円相当分)を200名様、Wチャンス賞(国内有名テーマパークペアチケット)を15組様、決定いたしました。当選された方、誠にありがとうございます。賞品



当選者決定!

のんちゃん賞 福島県産牛乳使用のカザロアイス



抽選した、猪股県本部長と金成燃料部長

の発送は9月下旬頃を予定し当選は発送をもって発表に代えさせていただきます。今回当選された方、惜しくも当選されなかった方も、また今回応募されなかった方も、11月23日から12月22日にかけて、「JA・SS 令和サンキューフェア・冬の陣」を実施しますので、ご応募お待ちしております。私たちJA・SSは、日常生活や農業経営に欠かすことのできない石油を継続的に供給していくため、一層努力してまいりますので、引き続きご利用の程よろしくお願いたします。

園芸部

第46回福島県花き品評会開催

8月30日(金)、JA農産物直売所愛情館(旧店舗)で、福島県花き振興協議会とJA全農福島が主催となり、第46回福島県花き品評会を開催しました。

今回は、カスミソウ、リンドウ、トルコギキョウ、小菊、草花、花木類など20種類以上の品目、186点の出品がありました。丹精込めて育てられた多くの花々に、審査も白熱し、金賞3点、銀賞10点、銅賞21点が選出されました。審査委員長の農業総合センター服部実副所長をはじめ、各審査員からは、金賞入賞品に対し、「草姿バランス、品質共に素晴らしい」「しっかりとしたつくりで、悪いところが見つからなかった」などの講評をいただきました。生産者の皆様、お忙しいところ出品いただき誠にありがとうございました。

8月31日(土)は、一般公開とフラワーアレンジメント教室、出品物の販売を行いました。



アレンジメント教室の様子 (講師：(株)花ぶじ 伊藤ご夫妻)



入賞品 (金賞は中央3点、左から東北農政局長賞、農林水産大臣賞、福島県知事賞)

で計40名が参加され、思い思いの作品を完成させました。国見町のドウダンツツジ、須賀川市の雪柳、その他にも紅なす、ケイトウなど県産花きを中心とした花材を使用し、福島の花に触れ、知っていた機会となりました。

- 農林水産大臣賞 小ぎく (JA福島さくら 佐久間幸一)
- 東北農政局長賞 宿根カスミソウ (JA会津よつば 林 玄三郎)
- 福島県知事賞 新鉄砲ゆり (JA夢みなみ 安田 善二)

(敬称略)

畜産部

畜産経営を担う女性を応援!! 『畜産女性研修会』開催

9月10日(火)、摺上亭大鳥(福島市飯坂町)で『畜産女性研修会』を開催しました。この研修会は、畜産経営を担う女性を応援し、畜産の活性化を図ることを目的として毎年開催しています。

今年はJAグループ和牛繁殖飼育者協議会 山富士雄会長、JA全農福島運営委員会 菅野 孝志会長挨拶に始まり、毎年恒例の、女性が元気に笑顔で働くための講演会では、落語家の桂歌助氏をお招きしました。歌助氏は笑点でおなじみの故・桂歌丸氏の弟子で、「笑いは健康と美容と人間関係円滑の元」という観点から「笑う楽しさ、笑わせる楽しさ」と題して、笑いが健康に与える影響や、日常会話を楽しくする秘訣などのお話を頂戴し、参加者は熱心に耳を傾けていました。



開催挨拶を行う JA全農福島運営委員会 菅野 孝志 会長



講演を行う桂歌助氏

また、講演後の食事会では、「福島牛と麓山高原豚ロースト」や「福島牛ときのこの味噌鍋」など福島県産農畜産物中心の料理が並びました。デザートには当県本部が運営している「カザロ」のジェラートが振る舞われ、その美味しさを堪能していただきました。



会場の様子

生産資材部

産業用無人ヘリコプター飛行技術 競技大会が開催されました 安全かつ効率的な防除のための取り組み

第18回福島県産業用無人ヘリコプター飛行技術競技大会が9月12日福島市大笹生の十六沼公園スポーツ広場にて開かれました。無人ヘリコプターを操縦するオペレーターと、誘導役のナビゲーター16組が参加し、選手たちは日頃から現場で鍛え上げた飛行技術を競い合いました。

競技では飛行の安定度(高度、速度、直進性、離着陸、オーバーラン等)、技能の精度(散布液の吐出開始・停止)、周囲や機体への安全確認等を審査項目とし、上位3組が11月に茨城県で開催される全国大会への出場を決めました。



競技の様子

空からの防除は効率的な反面、作業にはより一層の安全性が求められます。昨今では農家の減少および高齢化、また産業用ドローンの急速な普及に伴い利便性の高い無人航空機での農薬散布に注目が集まっています。今後も無人航空機による空中散布の需要が続くことが予想されることから、無人ヘリコプターでの薬剤散布技術がますます注目されます。



優秀賞受賞者(斉藤雄一さん、吉田康正さん)へ賞状を渡す佐藤副本部長